

# 会議録

令和 7 年 10 月 15 日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会令和 7 年度第 5 回定例会
開催日時	令和 7 年 9 月 17 日(水) 午後 6 時 30 分 から 午後 8 時 15 分 まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委 員：小須田厚子(会長)、松本静(副会長)、小林資郷、渡邊耕造、下坂小百合、亀倉康悦、花房敦子、ギログリー江美、鈴木明美、小林大介、坂内夏子、荒井容子 事務局：近藤館長、市川事業係長(柳沢)、根岸分館長(芝久保)、菅野分館長(谷戸)、一之瀬分館長(保谷駅前)、石井事業係主任
欠席者	澤井稔、小池教之、山本分館長(田無)
議題	1 審議事項 (1) 令和 7 年度第 3 回定例会会議録(案)について(資料 1) (2) 令和 7 年度第 4 回定例会会議録(案)について 2 主要事業について (1) 令和 7 年度公民館主催事業報告について(資料 2) (2) 令和 7 年度公民館主催事業計画について(資料 3) 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 令和 7 年度第 1 回利用者懇談会について 参加した委員の感想 他 (2) その他 (3) 令和 7 年度第 6 回定例会の開催について
資料	資料 1 令和 7 年度第 3 回定例会会議録(案) 資料 2 令和 7 年度公民館主催事業報告書 資料 3 令和 7 年度公民館主催事業計画書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(1 名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
1 審議事項 (1) 令和 7 年度第 3 回定例会会議録(案)について(資料 1) ●令和 7 年度第 3 回定例会会議録案(案)について承認  (2) 令和 7 年度第 4 回定例会会議録(案)について ●令和 7 年度第 4 回定例会会議録(案)については、修正点・意見などあれば、1 週間以内に事務局へ連絡をすること。  2 主催事業について (1) 令和 7 年度公民館主催事業報告について(資料 2) ○A 委員 各館からピックアップした公民館主催事業報告について説明をお願いします。 ○分館長(谷戸) 親子で楽しむ講座谷戸セミナーⅧセミの羽化観察会(谷戸)について報告する。両日と	

も沢山のセミの羽化を観察できた。谷戸町 10 組、ひばりが丘・住吉町各 4 組が参加。いこいの森公園は、セミの羽化として貴重な場所であると講師の話があり、驚きと感動、生命の素晴らしさを感じた講座であった。反省点は、終了時刻が予定時刻を過ぎたこと、横断歩道の渡り方などの配慮が必要。参加組数を増やすことも検討したい。

○B 委員

近所の公園でセミの羽化が沢山見られびっくりした。菅野分館長と公民館専門員と私の 3 人で引率したが、もう一人いた方が良いと感じた。あと、時間の延長については、仕方がないと思う。

○C 委員

孫にも見せたいと思い一緒に参加した。当日は子どもたちがセミを見つけるたびに先生を呼び、盛り上がっている様子を見るのが私も楽しく、このような感動が昆虫や科学などより深い学びに繋がると感じた。また、最初に先生から昆虫の説明を受けとても勉強になった。孫もすごく感動していた。特に 6 年間土にもぐっていること、小学校に通っている間ずっと土の中にいたことを説明されると、過去を振り返る機会となり、何かもう一つ企画が出来るぐらいの感動を得た。横断歩道は 2 班に分ける必要はあると思う。継続して実施してもらいたい。

○D 委員

夏休み青少年ウィーク夏休み子ども学習室～子どもと若者で楽しい学習室をつくる～（谷戸）だが、令和 6 年度の報告書では、面白かったと聞いていたが、今年はいまうまく行っていないように受け取れる。何が問題だったのか。担当者が、青少年ウィーク自体を変更した方がいいて書かれているので、全体的にどのように受け止めているのか。

○分館長（谷戸）

ボランティアの学生の募集に苦労したのは事実だが、当日は非常に和やかで和気あいあいと学習できたと認識している。教える側も教わる側も初めての子どもが多く、新しい発見があった事業と感じている。

○D 委員

令和 6 年度は中学生もいて、勉強だけでなく、ランチタイムで高校生が予想外な話をしてくれて、それが好評だったと思う。今回は十分な話し合いが出来なかったと報告書にあるが、学童クラブの児童を受け入れたことや後からボランティアを集める感じだったことが、昨年とずれていたと思う。高校生が自ら教えたい、サポートしたいという主体性から出発しなければならないと思う。この企画自体に問題がある様な書きぶりだが、そうではないと思う。学童クラブの児童を受け入れることについて再考する必要があると感じる。何が問題だったのかを分析して、長く続けてほしい。夏休み青少年ウィークを止めることはせず慎重に考えたほうが良い。

○C 委員

参加者の感想や担当者の考察からは、令和 6 年度の雰囲気と違っている。参加したボランティアにも戸惑いがあったので、スタッフの思いを丁寧に救い取って、次回に繋げてもらいたい。学童保育のイメージが少しするので、勉強だけでなく小学生の子たちと一緒に遊ぶことも必要というところを整理して、今後計画してもらいたい。

○A 委員

私もボランティアで入ったが、宿題も「答えは教えないけど、そこにいき当たるまでのことを一緒に考えようね。」と言って、子供たちと交流できたことがとても良かったと思う。スタディランチも大学生・高校生が経験したことを話していたが、学童クラブの児童がいたので少し戸惑っていた。学童クラブの児童も気分を変えて、公民館で過ごし、ウィンウィンの関係になれば良いと思う。

○分館長（谷戸）

学童クラブが過密化している現状で、児童青少年課からの申し出もあり、昨年度とは違う形となった。

○E 委員

昨年は、夏休みの宿題を高校生・大学生が手伝って、日本語教室の中学生にも「こんなと

ころがあるよ。何でも教えてくれるよ。」と紹介した。是非、夏休み青少年ウィーク（谷戸）は、皆で勉強を教えてくれる場所として定例化して欲しい。学童クラブの状況は理解できるし、公民館で受け入れてもらえるのはありがたい。来年度は、児童青少年課と十分協議して、計画に組み込む方がいい。是非これからも続けて欲しい。

○F 委員

谷戸公民館専門員から、早稲田大学の学生に声をかけて欲しいとの依頼があったが、残念ながら希望者がいなかった。ボランティアスタッフを増やすのはなかなか難しいのか。

○分館長（谷戸）

谷戸まつりや他の講座との繋がりで協力していただけるボランティアの学生はいる。しかし引き継ぎがうまくいっていないのも事実で、学生ボランティアの確保は課題であると認識している。

○D 委員

教えるのではなく一緒に考える場ということ松本委員が話していたが、大事なのは公民館に関わり始めた中高生のやりたいことが実現できるよう公民館と一緒に考えて支援すること。高校生が小中学生に教える企画でなくてもいいというぐらい開き直って、勉強、宿題の手伝いではなく、何か自由に企画する事業にしてみたらどうか。学習もサポートするが、公民館で行うことで、学童の方も変えていくような仕掛けを考えたらよいと思う。それで人が集まらなければ、集まらないの事業をやるとか、小学生に何を学びたいのかを聞くのに学童を活用してもらおうとか、来年度の事業内容をどうするか考えられると思う。

○C 委員

この事業は、何年か継続していく中で、中高生ボランティアが自分たちの学びを広げいったという流れがある。ボランティアの学生は巣立っていくので、ずっと公民館に縛りつけることはできない。大人になって帰ってきてという希望もあるが、公民館はその子どもたちの主体的で自由な発想を育てるようなことをしてもらえたらと思う。

○事業係長

令和5年度に高校生が考えた親に教えたい講座「スマホから始まる親子関係」（谷戸）があった。その高校生たちが中心となりこの夏休み青少年ウィーク（谷戸）も始まったので、そもそもは荒井委員が話していたような主旨の事業だった。高校生や公民館職員も変わり、学童の事情など周りの環境も変わる中で、この事業の趣旨と意味を改めて確認し、どんなことができるのか来年に向けて検討したい。

○G 委員

学校として、非常にありがたい事業だと思う。学童クラブの保育室が足りず、多くの子が勉強したくてもできない、図書室も足りず、家庭科室も貸してもらえないかという状況になっている。公民館でこのような事業を行っていることを初めて知った。認知されれば、特定の子は落ち着いて勉強したいと、喜んで参加すると思う。また、人材不足は東京都教育支援機構が運営する人材バンクに登録制度があるので、早めに伝えしておくに関わりやすいと思う。

（2）令和7年度公民館主催事業計画について（資料3）

○事業係長

ヤギフェス vol.14 柳沢みんなの文化祭（柳沢）について、すでに準備会が行われており、今回のキャッチコピーは『シン・ヤギフェス』となった。新、信、心、真など多くの意味を含めて、新しいヤギフェスをつくりあげようということになった。参加団体は21。保谷中学校の美術部に絵を描いてもらい、パンフレットやポスターに使う予定。また現在、武蔵野大学に和太鼓演奏を依頼しており、中高生には運営スタッフのボランティアを募っている。

次に、子どもを取り巻く環境について考える講座 大人は子どもと出会えるか～子ども・若者にいろいろ聞いてみよう～（柳沢）について説明する。昨年、公運審でいただいた意見を反映し、今回は当事者である子どもたち（中高生）にパネラーとして参加してもらう予定。子どもたちは学校や日常生活についてどう感じているのか、社会をどう捉え、どこが心

の居場所になっているのかなど、リアルな声を聞いてみたい。1回目は、講師から子どもを取り巻く環境について現状や構造について話してもらい、それを聞いた中高生、大学生が2回目感想を含めて講師とやり取りしながら理解を深めていく講座を想定している。

○分館長（保谷駅前）

保谷駅前公民館から2件説明させていただく。保谷駅北口から徒歩約5分の場所に下保谷四丁目特別緑地保全地区の旧高橋家の屋敷林を会場に、地域講座と環境講座を実施する。地域講座薺女唄が聞こえる（保谷駅前）は、高橋家屋敷林保存会との地域共催事業。越後薺女の意志と芸を継承する講師の実演や語りから身体や楽器を介在させた時間芸術の本質・普遍性を学ぶとともに、芸能や文化の価値や可能性、地域資源の保全や更新の意義について考える講座とする。次に、環境講座温暖化から地域のオアシスを守ろう～地球にやさしい生活～（保谷駅前）は、地域ボランティアによる保全活動がされている高橋家の屋敷林で、自然を学ぶとともに、緑地の保全活動の詳細とその大切さを知る機会とする。母屋・蔵・井戸などがあり、高さ20mほどのケヤキや白樺や杉などの木が残されており、武蔵野の屋敷林や雑木林と人間との共存について、環境問題温暖化防止策などの観点から学び、自然と調和した持続可能な社会にするために、地域の緑を守り育て生かす方法を考える事業としている。

○D委員

子どもを取り巻く環境について考える講座（柳沢）だが、パネリストには可能ならば小学校中学年くらいの子どもにも参加してほしい。小中学生の参加があれば、盛り上がって面白いと思うが、どうか。

○事業係長

2週間連続で参加できる小学生が見つかるかどうか、アプローチしてみる。

○C委員

子どもを取り巻く環境について考える講座（柳沢）は、PTAが無くなっていく中で、子どもたちのことを考える場が少なくなっているのが、大事な講座だと思う。保育の工夫や、どうすればよかったのかを取り上げて、講座実施後には、子どもたちに負担は無かったのかなど具体的に報告をいただきたい。

○事業係長

了解した。

○D委員

防災講座災害時、その情報は大丈夫？～正しい情報をキャッチし、行動しよう～（田無）について、確認方法のテーマはとても大事だと思うが、中身がわからない。確認方法は何を想定して、どう判断するのが大事なのかなど何を意識しているのかを伺いたい。

○公民館長

本日、分館長（田無）が欠席ですので、質問を伝えて、後日回答させていただく。

○D委員

事業内容の情報がないのか。この場でやり取りをしたかった。

○C委員

この場で共有できるのが一番と思う。もう少し詳しく説明していただければと思う。

○事業係長

内容としては、フェイクニュースなどの偽情報が蔓延する中、正確な情報の入手手段、判断の仕方などが含まれる。

○D委員

どんな情報を取ればいいのか、参加者がお互いに話し合ったり、こういうものを活用したらいいなど意見を交わしあえるような工夫をし、一方的な説明ばかりの講座にはならないように気を付けて欲しい。

### 3 報告事項

#### (1) 行政報告

○公民館長

9月2日から5日まで議会の一般質問があり、公民館関連の質問は2点あった。

1 点目は、8 月 18 日に発生した落雷による保谷駅前公民館の停電についての質問で、停電の原因・影響・公民館利用者の状況・公民館の対応状況について教育長から答弁した。

2 点目は、公民館の自販機設置についての質問で、公民館 6 館には、自販機が設置されていない現状と、柳沢・芝久保・ひばりが丘の 3 館には、冷水機が設置されたこと、都営住宅に併設されている公民館 4 館については東京都に確認し、自動販売機の設置は難しいという回答を得ている。公民館は市内クールシェアスポット、クーリングシェルターにも位置づけられているので、引き続き、関係部署と調整し、利用者の皆さんが快適に過ごせるよう環境を整えていくことを教育長から答弁した。

○C 委員

設置された冷水機の利用率はどうか。

○事業係長

柳沢は、設置後 3 か月の 8 月時点で約 4,600 本（500 ml のペットボトルで）、ひばりが丘は、約 3,000 本で思ったより多くの利用があった。利用者からも好評を得ている。

(2) 公民館だより編集室報告

今回から、B 委員が編集委員に加わり 9 月 1 日に編集会議について報告

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

10 月 25 日（土）福生市さくら会館にて研修会の概要説明と協力依頼

#### 4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和 7 年度第 1 回利用者懇談会について

○C 委員

ひばりが丘公民館に初めて参加したが、公共施設予約管理システムの変更について、多くの方が熱心に話を聞いていた。時間がなく、最後に来年の公民館事業への要望を聞く時間を取ったが、サークル同士の交流の時間が取れなかったのは残念。

○G 委員

グループワークを楽しみにしていたが、新システムの説明・質疑応答に時間がかかった。参加者からは、パスワードの 8 桁以上が負担でしかない、変更して欲しいとの意見もあり、上の世代からすると負担が大きいと思った。実際活用して若い方と高齢者の接点を設けることが重要だと思う。

○H 委員

谷戸公民館に参加したが、丁寧に公民館が説明していたので、特に混乱はなかった。わりとスムーズに移行できるのではないかなと思う。

○B 委員

谷戸は他のサークルとの交流の時間が取れば良かったと思う。なぜメールアドレスが必要なのか、登録すると公民館からの連絡がアドレスに来るのかの質問があった。登録した本人にしか連絡が来ないので、他のメンバーは、抽選結果をどうやって知るのかの質問があったが、分館長が説明し、解決したと思う。実際のパソコン画面を見ながらであれば、理解が深まったと思う。

○D 委員

システムが変わることに時間を割かれたが、公民館主催講座についても担当者や参加した市民から説明する時間があつた。様々な課題、担当者の意見も聞くことができたので良かったと思う。また、団体・サークルの PR タイムでは、サークルを立ち上げたきっかけやメンバーの高齢化の現状など、グループに分かれるとなかなか聞けない話もみんなが聞けるので、グループに分かれず会場全体で進行する今回のやり方もありかもしれないと思った。

○A 委員

保谷駅前公民館に出席した。今回は、出席団体 41 団体の参加で多いと思った。公民館からの知らせと新システムの話をした。他の団体との交流時間が多少短かったが、色々な意見が聞けてよかったと思う。

○F 委員

今回初めて利用者懇談会に出席した。システム変更の関心が高かった。B 委員が利用者団

体として参加しており、自己紹介の時にマジックと落語のコラボ講座の話しがあり、様々な団体交流があるということを伝えることができた。職員はとても丁寧で、雰囲気も明るく進行了のが印象的だった。

○D委員

柳沢公民館の後に保谷駅前公民館に行った。館によって利用者懇談会の進め方が違うことも分かった。事業を一つひとつ紹介され、資料が丁寧に作られていた。時間が足りなかったのが残念だったが、雰囲気は良かった。

○C委員

柳沢公民館は、参加者同士で意見を交わしたり発言する形を3年間続けていて、皆さんの発言が自由に出てきたのは、その積み重ねもあると感じた。積み重ねていくことで、参加する方も発言する場として捉えていると感じた。

○事業係長

イベントの告知ができる団体は、イベントを実施できる体力のある団体だと思うので、人が少なくて困っている団体もここでアピールしませんかと投げかけたところ、複数の団体がとても良いお話をしてくれた。発言しやすい雰囲気づくりをこれからも心がけ、市民の方が登場する場面を多くする工夫をしていきたい。

(2) その他

なし

(3) 令和7年度第6回定例会の開催について

日時：令和7年10月15日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室